

第2章 各教科等における学習評価

8 (1) 小学校 体育

単元（題材）における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとめりごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。

ここでは、

第1学年及び第2学年 B 器械・器具を使つての運動
「器械・器具を使つての運動遊び」（マットを使った運動遊び）

の単元を例として、その評価例を示す。

① 単元（題材）の目標を作成する

まずは学習指導要領の趣旨等に基づき、本単元で指導する内容を明確にする。その上で、以下の考え方で「単元の目標」を設定することができる。

- ・学習指導要領解説の本文を参考に、設定することができる。
- ・解説の本文に示された内容は、各領域において育成を目指す資質・能力であるため、学習指導要領の趣旨等に基づく指導上の目標と捉えることができる。
- ・目標の語尾は、「～することができるようにする」と表記する。

このことを踏まえて、本単元の「単元の目標」を以下のように設定することができる。

- (1) マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。
- (2) マットを使った簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。
- (3) マットを使った運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。

（太字下線部は、解説本文からの引用部分を表す）

② 単元の評価規準を作成する

単元の評価規準の作成にあたっては、盛り込むべき事項を整理した上で、児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化する。その際には、以下の考え方に基づいて進めることができる。

- ・ 評価規準の語尾は、
「～できる」（技能）、
「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、
「～しようとしている」（主体的に学習の取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。
- ・ 「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
- ・ 「思考・判断・表現」については「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。

このことを踏まえて、本単元の「単元の評価規準」を以下のように設定することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。	① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。	① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。

② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいく。	② 順番やきまりを守り誰とも仲よく運動遊びをしようとしている。
③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書き出したりしている。	③ 場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。
		④ 場の安全に気を付けている。

* 各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

③ 指導と評価の計画を作成する

指導する事項のうち、いつ、何を、どのように評価するのかを計画する。その際、評価のための指導に陥ることのないよう留意することが大切である。また、指導したことをその時間内に評価するのではなく、引き続き指導する観点から、敢えて指導と評価の時間をずらすことも考えられる。さらに、単元の前半に設定する評価については、その結果をもって単元全体の評価とするのではなく、単元後半につなげる指導のための評価という観点を踏まえ、必要に応じて単元終了時まで指導と評価を繰り返すことが大切である。

以下に、本単元における指導と評価の計画例を示す。

	1	2	3	4	5	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）				
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	ぴよんぴよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ同士で紹介し合っていて楽しむ。	
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
		転がり方を組み合わせる。	腕立て横跳び越し	さかさまからのブリッジ		他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。
4 5	振り返り→整理運動→片付け					
知※		① 観察	② 観察	③ 観察		① または③ 観察
思			③ 観察・カード		① 観察・カード	② 観察・カード
態	④ 観察	③ 観察		① 観察	② 観察	

* 知…「知識・技能」、思…「思考・判断・表現」、態…「主体的に学習に取り組む態度」

* 1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするにあたり無理のない計画を立てる。

④ 実際の指導及び評価

実際の指導に際しては、「おおむね満足できる」状況（B）の具体的な姿の例を想定した上で、どのような評価の資料（児童生徒の反応や作品など）を基に評価するかを考えて指導と評価を行う。

ここでは、本単元の評価規準について、各観点一つずつその例を示す。

観点	単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
知識・技能	① マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。	・マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書き出したりしている。(観察・カード) ・マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。(観察)
思考・判断・表現	① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいく。	・坂道やジグザグなどのコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。(観察・カード) ・自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。(観察・カード)
主体的に学習に取り組む態度	① 動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。	・アザラシ歩き、クマ歩き、ウサギ跳び、カエル跳びなど、動物などの真似をした遊び方を試したり、前転がりや後ろ転がりなどの転がり方を試したりしている。(観察) ・いろいろな運動遊びに繰り返し取り組んでいる。(観察)

＊ 知識においては、運動遊びの行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や、実際に正確に行っている姿で見取ること、技能においては、連続してできる、滑らかにできる、安定してできるなど、よりよくできる姿で見取ることが想定される。

＊ 思考・判断においては、設定された活動をもとに、自分なりにさらに工夫しようとしていることが行動や言葉として表出される姿で見取ること、表現においては、友達のよい動きや自分が工夫した動きを、言葉や動作、身振りなど多様な表現方法を用いて友達や教師に伝えたり、カードに書き出したる姿で見取ることが想定される。

＊ 愛好的な態度においては、課題の解決に向けて、意欲的に取り組もうとしている姿、公正や協力に関する態度においては、公平・公正な態度と友達をよりよく支えようとしている姿、責任や参画に関する態度においては、グループでの活動等で生じる自分の役割を十分に果たそうとしている姿、共生に関する態度においては、自分と課題の解決が異なる場合においても、違いを認め、自分事として引き取ろうとしている姿、健康・安全に関する態度においては、自分の安全だけでなく、友達の安全の確保にも留意し、行動する姿で見取ることが想定される。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

適切な評価の下に得た、児童生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元(題材)末、学期末、学年末等の節目が考えられるが、総括の時期や方法には様々な考え方があり、各学校において工夫することが求められる。

ここでは、単元で総括する場合を例として本単元の例を示す。

	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	総括
知		①→B	②→B	③→A		②→A	A
思			③→B		①→A	②→B	B
態	④→B	③→A		①→B	②→A		A

＊ ここでは、各観点における単元の評価規準について、

2つ設定した場合：AA→A、AB→A又はB、BB→B、BC→B又はC、CC→C

3つ設定した場合：AAA・AAB→A、ABB・BBB・BBC→B、BCC・CCC→C

4つ設定した場合：AAAA・AAAB→A、AABB→A又はB、ABBB・BBBB・BBBC→B、BBCC→B又はC、BCCC・CCCC→C として総括している。

＊ 毎時間の指導においては、単元目標を踏まえ、育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき目標を設定するが、全ての児童に全てのことを指導し評価することは現実的ではない。三つの指導に留意しつつも、本時において重点的に指導する内容を絞り、指導することが想定される。

＊ ある児童において、単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、

単元の終盤までにAまたはBとなるよう指導の充実を図ることが本来の評価の在り方であることから、単元の前半に評価したことをもってその観点の評価を確定することには留意が必要である。

⑥ 保健領域における指導と評価について

(a) 評価の進め方

保健の学習は、小学校第3学年から高等学校まで継続的に行われる学習である。小学校段階から、保健の学習内容に関心をもてるようにするとともに、健康に関する課題を解決する学習を積極的に行うなどの指導方法を工夫・改善することで、資質・能力をバランスよく育み、心身の健康を保持増進することができる。

こうした資質・能力を育成する上で、評価は重要となる。保健の学習の評価活動は、大きく分けると、以下の3つの局面が考えられる。

- ① 児童が、保健に関する知識や関心をどの程度もっているのかを見取るとともに、児童の発達の段階や態度、発言、行動などから、学習内容の重点等を鑑み、授業の計画を立てる局面（診断的評価）。
- ② 単元の保健の学習の中で、児童がどのように変容しつつあるのかを見て取り、次なる課題を提示したり、指導の在り方の修正を考えたりする局面（形成的評価）。
- ③ 保健の学習が目標に対してどの程度まで達成できたのかを、児童の学習状況から見て取る局面（総括的評価）。

(b) 各観点についての基本的な考え方

知識・技能

児童の発言を観察から評価するとともに、1時間の学習の軌跡として、ワークシートなどから評価していくことが考えられる。また、単元の総括として全員の学習状況を記録として残すよう、これまでの学習状況の定着と合わせて、ペーパーテストを活用することも一つの方法として考えられる。

思考・判断・表現

「思考・判断」について観察やワークシートから評価することが考えられる。評価する際は、なぜそう考えたのか理由を問う欄や、自己の生活と比べたり関連付けたりする設問を設定するなど、ワークシートを工夫することが考えられる。また、「表現」を評価する際には、「知識」として得た内容をどのように「思考・判断」したのかを、発表やグループでの話し合い等において友達などへ伝えている姿から観察で判断していくことが考えられる。また、ポートフォリオを活用するなど評価方法を工夫することも考えられる。

主体的に学習に取り組む態度

学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する必要がある。その際、「粘り強い取組を行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとしている側面」の二つの側面を評価することが求められ、いずれの側面も、知識及び技能を習得させたり、思考力、判断力、表現力等を育成したりする場面に関わって評価していく。「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、育成に時間がかかる点に留意し、1時間ごとの画一的な評価ではなく、単元を通して見取っていくことが重要となる。

(c) 評価規準（例）

第4学年 （2）体の発育・発達

の単元を例として、単元の評価規準例を示す。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり、書いたりしている。	① 体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変	① 体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や

<p>② 思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることや初経、精通、変声、発毛が起こることなどについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>③ 体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>	<p>化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。</p> <p>② 体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことをワークシートなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。</p>	<p>資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。</p>
--	---	---

評価の総括については、評価結果のA、B、Cの数を基に総括する方法や、評価結果のA、B、Cを数値に置き換えて総括する方法などが考えられるが、総括の時期や方法には様々な考え方があり、各学校において工夫することが求められる。

<参考資料>

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校) (国立教育政策研究所)